

「バリア」の逆は「ありば」。
バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、「ありば」というタイトルにしました。
みんなに住みよいまちを、みんなで築くために。
人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介します広報誌、それが「ありば」です。

ありば

VOL. **48**
2024



表紙 / ざりがに
前田笑華（まえだ えみか）さんの作品

『第42回（令和5年度）肢体不自由児・者の美術展』絵画部門で特賞にあたる文部科学大臣奨励賞を受賞した「ざりがに」。県立鹿児島南特別支援学校に通う前田笑華さん（11歳）の作品です。図工の学習で「生きものを描こう。」ということで、図鑑を見ている際に大きなはさみがとても気に入り題材にしたそうです。前田さんは、イラストや絵を描くことは好きですが、あまり自信はなかったそうで、受賞はとにかくびっくりしたそうです。家族はもちろん、友達にも「凄いな！よかったね！」と喜んでもらえて、嬉しかったとのこと。前田さんの将来の夢は、警察官だそうです。「どのような勉強が必要か調べていきます。また残りの小学校生活は友だちとたくさんの思い出を作りたいです。今後も小さなイラストや絵を描くことを楽しみたいです。」と話してくれました。

CONTENTS

[特集]
「合理的配慮の提供」が義務化されました。 **PAGE 1**

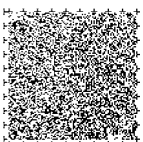
ありばヒューマンドキュメント
元吉 拓也さん **PAGE 3**

ありば通心
こども食堂『みんなの庭』
(NPO 法人みどりの庭) **PAGE 4**

ハードルを越えて
叶 亜寿香さん **PAGE 5**

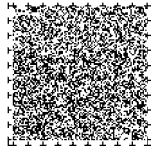
バリアフリー最前線
朝日公園
鹿児島県身障者用駐車場利用証制度 **PAGE 6**

鹿児島県からのお知らせ
・農福連携をご存知ですか？
・ヘルプマーク・ヘルプカード
・鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター **PAGE 7**



「合理的配慮の提供」とは？

特集



障害者が、障害のない人と同じように社会に参加できるように、必要な支援や配慮を行うことです。

障害者差別解消法の改正により、事業者も合理的配慮の提供が令和6年4月から義務となりました。

※ 個人事業主やボランティア活動をするグループなども「事業者」に含まれます。

合理的配慮の具体例

障害のある人から申出があった場合は、無理のない範囲で、できることを考えてみましょう。

**合理的配慮の内容は個別の場面に応じて異なります。
状況に応じて、総合的・客観的に判断しましょう。**

物理的環境への配慮 (例：肢体不自由)

【障害のある人からの申出】
飲食店で車椅子のまま着席したい。

↓
【申出への対応】
机に備え付けの椅子を片付けて、車椅子のまま着席できるスペースを確保した。



意思疎通への配慮 (例：弱視難聴)

【障害のある人からの申出】
難聴のため筆談によるコミュニケーションを希望したが、弱視でもあるため、細いペンや小さな文字では読みづらい。

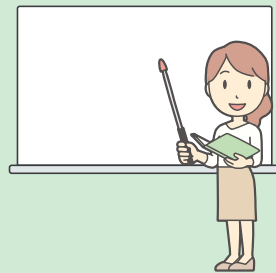
↓
【申出への対応】
太いペンで大きな文字を書いて筆談を行った。



ルール・慣行の柔軟な変更 (例：学習障害)

【障害のある人からの申出】
文字の読み書きに時間がかかるため、セミナーへの参加中にホワイトボードを最後まで書き写すことができない。

↓
【申出への対応】
書き写す代わりに、デジタルカメラ、スマートフォン、タブレット型端末などで、ホワイトボードを撮影できることとした。



本来の業務に付随しない場合や負担が重すぎる場合等は、合理的配慮の提供義務には反しません

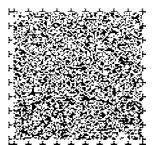
必ずしも申し出のとおりを実施する必要はありません。
対応が難しい場合は、理由を丁寧に説明し、理解を得るよう努めましょう。

【本来の業務に付随しない場合の例】

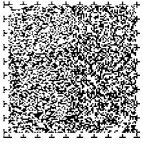
飲食店において食事介助を求められた場合に、飲食店は食事介助を事業の一環として行っていないことから、介助を断った。

【負担が重すぎる場合の例】

小売店において、混雑時に視覚障害のある人から店員に対し、店内を付き添って買い物を補助するよう求められた場合に、混雑時のため付き添いはできないが、店員が買い物リストを書き留めて商品を準備することを提案した。



障害者差別解消法の改正により
事業者も「合理的配慮の提供」が義務化されました。



「合理的配慮」には対話が重要です！

合理的配慮の提供に当たっては、障害のある人と事業者等が対話を重ね、共に解決策を検討していくこと（建設的対話）が重要です。建設的対話を一方的に拒むことは合理的配慮の提供義務違反となる可能性もあるため、注意が必要です。

対話の際に避けるべき考え方

× 「前例がありません」

合理的配慮の提供は個別の状況に応じて柔軟に検討する必要があります。

× 「特別扱いできません」

合理的配慮は障害のある人もない人も同じようにできる状況を整えることが目的であり、「特別扱い」ではありません。

× 「もし何かあったら・・・」

漠然としたリスクだけでは断る理由になりません。どのようなリスクが生じ、そのリスク低減のためにどのような対応ができるか、具体的に検討する必要があります。

× 「〇〇障害のある人は・・・」

同じ障害でも程度などによって適切な配慮が異なりますので、ひとくくりにせず個別に検討する必要があります。

障害の「社会モデル」の考え方

障害の「社会モデル」とは、障害のある人が日常生活で受ける様々な「制限」は、自身の心身のはたらきの障害のみが原因なのではなく、社会の側に、様々な障壁（バリア）があることによって生じるもの、という考え方です。

合理的配慮は、この「社会モデル」の考え方を踏まえたものです。

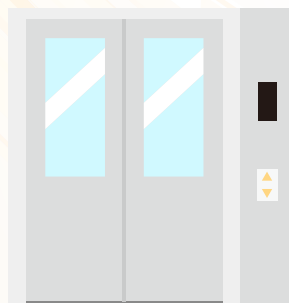
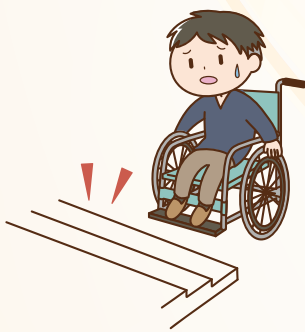
●階段しかないので、2階に上がれない

▶ 「障害」がある

●エレベーターがあれば、2階に上げれる

▶ 「障害」がなくなった！

車椅子の方は、何も変わっていない
変わったのは、あくまでも周囲の環境



●「社会モデル」の考え方に基づけば、「階段」という障壁（バリア）があることで車椅子の方に「障害」が生じていることとなります。

出典：内閣府 リーフレット「令和6年4月1日から合理的配慮の提供が義務化されました」

障害者差別解消法・合理的配慮の提供に関する相談窓口

内閣府 障害者差別に関する相談窓口「つなぐ窓口」

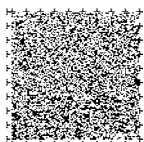
（毎日10時～17時、祝日・年始を除く、令和7年3月下旬まで）

TEL：0120-262-701 E-mail：info@mail.sabekai-tsunagu.go.jp



合理的配慮の提供について、何をすれば良いかわからない。

お店に配慮やお願いをしたいことがあるが、どうすれば良いかわからない。



鹿児島県での障害者差別解消の取組については、県ホームページを御覧ください。



鹿児島県 障害者差別解消

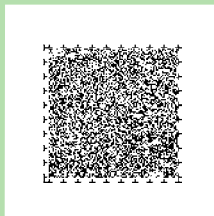
検索



バレーボールは繋ぐスポーツ。1人の選手で勝てるわけじゃない。うちは全員が仲間で繋ぐ意識を持った素晴らしいチームです。

ありが

バレーボール ドキュメント



知的障害者バレーボール倶楽部「排球かごしま」
男子チーム監督

【元吉 拓也】さん

教え、教えられ。

一緒に成長を遂げるチーム

2016年に結成された「知的障害者バレーボール倶楽部『排球かごしま』」は、元教諭の春田眞さんが中心となり知的障害者バレーボール教室として活動を開始。

現在男子チームは、選手15名と指導者・ボランティアスタッフ数名で構成され、鹿児島市内で月3回練習しています。

チームをまとめる元吉拓也さんは、2020年開催予定だった「燃ゆる感動かごしま大会」に向けてなにか自分にもできないかと思っていたところ、以前から親交のあった島木隆成さん（聴覚障害者バレーボール男子チーム監督）から誘われ、知的障害者チームの監督に就任しました。

バレーボールの監督は初めてで、知的障害に対する知識も少なかったことから、監督就任当初は指導方法について悩むことが多かったそうです。そんな時、島木さんから「特別な目で見ると、どうしようかと悩むのではないか。健常者と付き合うように話せばいいんじゃないの。」とアドバイスされたことがきっかけで、思ったとおりにやればいいと変わってきたそうです。

バレーボールの試合は、コートに立つ6人でローテーションしながら戦うため、ポジションを覚えるのに、選手はひと苦労するそうです。そのため、言葉で指導するだけでなく、元吉さん自身が動き、選手に後ろや横から見せて覚えさせるなど、指導を工夫しているそうです。

また、選手同士で良いところ・ダメなところを率直に教え合うなど、練習中もよくコミュニケーションをとっている様子が見られました。

元吉さんは「どうしたら伝わるのか、選手に逆に尋ねています。試合の時は監督ですが、自分が上だという感じではなく、「チーム」として、監督も選手もみんな一緒です。」と語ってくれました。

『バレーボール教室』から、 全国障害者スポーツ大会 鹿児島県代表チームへ

結成当初のチームは、試合に負けて悔しいと思う選手は少なかったのですが、練習や試合を重ねるうちに『もっと上手になりたい。負けたくない。悔しい。勝って全国大会に行きたい。』という気持ちが生まれるようになったそうです。また、バレーボールを始めたことで引込み思案

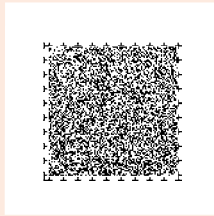


月3回の練習には、学生から社会人まで幅広く参加しています。初心者でも大歓迎！



バレーボールに興味のある方は、県障害者バレーボール連盟事務局までお問い合わせください。

鹿児島県障害者バレーボール連盟
〒890-0015 鹿児島市草牟田町3-16
((株)北義肢製作所)
連絡先：090-8351-4347 (事務局長：元吉)



地域で造る、温かな食事 と暖かな居場所

NPO法人みどりの庭は、障害の有無に関わらず、みんなで助け合えるような社会を目指し、理事長の磯邊貴志さんを中心に、放課後等デイサービスや就労継続支援B型、不登校・引きこもり日中一時支援などの事業所を運営しています。その活動の中で、障害のある子どもたちの保護者から、「外食に行った際に多動症のため長時間座っていることが難しく、騒いでしまったり周りの目が気になる」という相談を受けたそうです。そこで、保護者にもゆっくりと外食してもらいたいという思いで、障害のある子どもなどを対象とした子ども食堂『みんなの庭』を立ち上げました。

子ども食堂の提案者である児童発達管理責任者の川越あゆみさんは「家族や友人と楽しそうに笑いあって食事している姿は見ていて嬉しいですね。最初は緊張している子どもたちも、食べ終わる頃には元氣いっぱいです。また、この食堂は保護者同士の情報交換の場にも

子ども食堂『みんなの庭』(NPO法人 みどりの庭)



子どもの発達の悩みなど幅広い相談に対応



スタッフ一同



この日のメニューはカレーと唐揚げ



子ども連れから高齢者まで様々な方が来店されます。



この日は、食料以外にも洋服や健康食品、化粧品なども配布

「今後は、日常的に食べるものについているご家庭に、お弁当の配達なども検討しているそうです。磯邊さんは「障害のある子どもを対象にした子ども食堂の認知度は、まだまだ低い状況です。ここでは専門のスタッフもいますので、安心して食事をお楽しみください。」とお話しくださいます。

「また6月には、子ども食堂開催日にエステサロンやB型事業所の雑貨販売などのイベントも行いました。普段、仕事や子育てに忙しい保護者に少しでも休んでほしいという思いから実施したそうです。『NPO法人として、地域の子どもや保護者を見守り、障害の有無に関わらず生活しやすい地域になるよう、盛り上げたいと思っています。』と川越さん。

「メニューは、川越さんと調理師免許を持つ磯邊さんで考え、ボランティアの方と一緒に調理・提供しています。『お店に食べに来た』という、わくわくした気持ちを子ども達に味わってもらえるように工夫しているそうです。食材は、曾於市のフードバンクや地域の農家、家庭菜園をされている方から提供されたものを使用しています。川越さんは「食材を提供してくださる方々のお気遣いがとても嬉しいです。」と笑顔でお話されました。

特定非営利活動法人 みどりの庭

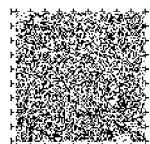
〒899-8604 曾於市末吉町諏訪方 6227-5

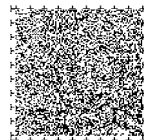
TEL・FAX: 099-482-5060

HP: <https://midorinoniwa.com/>

子ども食堂開催場所: 岩川地区農業構造改善センター

大人: 1食 300円 子ども(高校生以下): 無料





リレーエッセイ

ハードルを越えて

44

叶 亜寿香さん
(鹿児島市)

私はハートピアかごしま市内にある、鹿児島県視覚障害者団体連合会に勤務しています。仕事は、事務職員として団体の活動全般に関わり、会長や役員業務の調整を任されています。会員はもちろん関係先（県内自治体や加盟団体、他県団体等）との連携もあり、パソコンを利用した文書作成（活字・点字）も行っています。また、会員からのパソコンやスマートフォンの使用方法等についての電話相談、来客対応等も行っています。私自身が全盲ということもあり、会員に寄り添ったお仕事ができているのではないかと考えています。現在の仕事にはパソコンの使用が不可欠であり、音声読み上げ機能を活用し、メールの確認や文字入力も自分で行っています。

鹿児島盲学校に通っていた時に、パソコンを用いた文字入力方法を教わったことがきっかけでパソコンに興味を持つようになりました。それまでの文書のやりとりは点字が全てだったので、パソコンを使うことで「点字を介さずにやりとりができるんだ」と感動したことを覚えています。盲学校卒業後も、自分に合った環境で好きなことを学びたいということと、どんな仕事もPCを使えた方が良いと考え、情報処理を学べる県外の視覚・聴覚障害者向けの大学に進学しました。

大学では、パソコン等での事務作業の基礎を学ぶ一方で、寮生活で自炊など身の回りのことは自分でやるようになりました。その経験が、一人で生活する力を身に付けることに繋がったと思います。心配しつつも、県外へ進学させてくれた両親には感謝しています。

大学卒業後は、自分が興味のある職に就こうと考え、パソコンを使用する事務職のみならず、好きな音楽に携われる仕事も含め、幅広く就職活動をしました。視覚障害者がどのように仕事をしているか知らない企業の方も多かったため、許可をいただいた上でパソコンを持参し、メール作成や検索の仕方などを実践するようにしていました。また、できないことやサポートしてほしいことなど自分自身を分析し、具体的に伝えるようにして、企業の方の理解が得やすくなるよう心がけ、縁あって今の勤務先に就職しました。周りの方にサポートいただきつつ、楽しくお仕事をさせていただいています。

働き始めて10年目。両親や周囲の方々、特に社会人としてそれぞれの世界で働いている視覚障害者の先輩方に助けられ、刺激を受けて成長してこられたと思います。そのおかげで壁を感じずに生活してきました。これからの壁をどう越えられるかは分かりませんが、周囲の協力やデジタル化の進歩のおかげで鹿児島にも事務職で働く視覚障害者がいること、視覚障害者も事務職で働けるということを発信していきたいと思っています。



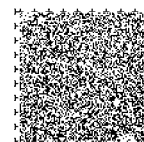
文書を音声で聞き、左手の点字ディスプレイで点字変換を行います。入力文字の漢字への変換も、音声で確認して行います。

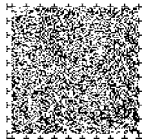


同僚「叶さんは、誰にでも丁寧に接して下さり、仕事が正確なので、とても頼りになります。」

鹿児島県視覚障害者団体連合会

〒890-0021 鹿児島市小野1丁目1-1 ハートピアかごしま3階
TEL：099-228-6712 FAX：099-228-6712





KAGOSHIMA バリアフリー最前線 Barrier Free-Saizensen

鹿児島島のいろいろな建物や施設、
あるいは人の心の中にあるバリアが取り払われています。
一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。



遊具への通路は車椅子でもスムーズかつ安全に移動が可能



障害者優先駐車場を2箇所整備



遊具下の地面は柔らかい素材を使用

●朝日公園は、令和6年7月20日にプレリニューアルしました。愛称は「みなくるパーク」。ユニバーサルデザインを採り入れた休憩施設や遊具を配置しています。
公園の大きな特徴は、障害の有無にかかわらず、安全に遊べるよう配慮した※インクルーシブ遊具を設置したことです。一般的な遊具は、階段やはしごを利用しますが、朝日公園の遊具は、車椅子でも利用できる緩やかな傾斜のスロープになっています。

また、視覚障害の方でも楽しめる音の鳴る遊具や背もたれと安全ベルトがあるブランコを設置しています。
駐車場や園路は、段差をなくし、休憩所には、車椅子対応型のテーブルを設置しています。
現在は、令和7年春頃のグラウンドオープンに向け、遊具周辺の工事を進めており、バリアフリートイレや、誰でも分かりやすい表記の点字つき案内板を設置予定です。

自然や観光の魅力あふれる南さつま市で、障害の有無にかかわらず遊べる朝日公園の遊具を楽しんでみませんか。
※インクルーシブ遊具
体の障害の有無にかかわらず、全ての方が一緒になって遊ぶことができる遊具のこと。

朝日公園 (みなくるパーク)

(南さつま市)

南さつま市加世田村原1丁目6
TEL 0993-76-1626
(南さつま市役所都市整備課)



プレオープン(7/20)の記念式典の様子

鹿児島県身障者用駐車場利用証制度 (パーキングパーミット制度) について

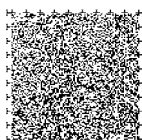


左の表示のある身障者用駐車場は、県の発行した利用証(基準に該当する方に交付されます。)がないと使用することができません。

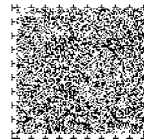
車を運転される車いす常時利用者の方や歩行困難により建物に近い位置に駐車が必要としている方など、この駐車スペースを本当に必要としている方が利用できるよう鹿児島県身障者用駐車場利用証制度への協力・理解をお願いします。

本制度の対象となる方で利用証をお持ちでない方は最寄りの窓口(県庁障害者支援室、地域振興局・支庁・事務所、ハートピアかごしま)で申請くださるようお願いいたします。

問い合わせ先 県庁障害福祉課障害者支援室地域生活支援係
TEL 099-286-2746 FAX 099-286-5558



鹿児島県からのお知らせ



農福連携をご存知ですか？

農福連携とは、障害のある人等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組のことです。担い手不足や高齢化が進む農業分野においては、新たな働き手の確保につながる可能性があります。

県では、農福連携の取組を推進するため、一般社団法人かごしま障がい者共同受注センターに農福連携推進専門員を配置し、障害者就労施設等と農業者等のマッチング（契約内容の仲介等）や相談対応を行っています。

農福連携は、農業経営体による障害者の雇用、障害者就労施設による農業参入や作業受託等、様々な形態があります。農福連携について知りたい、または始めたいとお考えの際は、ぜひ農福連携推進専門員に御相談ください。

また、県内の障害者就労施設等の利用者が心を込めて作った野菜やお菓子などを多数販売する「農福連携マルシェ」を令和6年10月17日・18日に鹿児島中央駅AMU広場で開催しますので、ぜひお越しください。



問い合わせ先：一般社団法人かごしま障がい者共同受注センター 電話 099-206-5210 FAX 099-250-9358

ヘルプマーク・ヘルプカードをご存じですか

県では、義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方など、外見からは分からなくても援助が必要な方を対象に、「ストラップ型のヘルプマーク」、「ヘルプカード」を配布しています。

ヘルプマーク・ヘルプカードを持っている方がお困りのようであれば、「どうしましたか？」、「何かお困りですか？」と声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。

マーク及びカードの配布は、お住まいの市町村のほか、県庁障害者支援室、地域振興局・支庁、ハートピアかごしまにて行っています。また、郵送での配布も行っておりますので、詳しくは県のホームページをご覧ください。



問い合わせ先：県庁障害福祉課障害者支援室 電話 099-286-2746 県ホームページ：[鹿児島県 ヘルプマーク](#) で検索

鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター

県では、障害者の自立と社会参加を促進するため、芸術文化活動を行う障害者やその家族、福祉施設、支援団体等を支援する拠点として、「鹿児島県障害者芸術文化活動支援センター」を設置しています。お気軽に御相談ください。

【主な業務】・障害者の芸術文化活動に関する相談支援

- ・芸術文化活動を支援する人材の育成等
- ・芸術文化活動に参加する機会の確保
- ・県内の芸術文化活動情報の収集・発信



問い合わせ先：県障害者芸術文化活動支援センター（実施団体：特定非営利活動法人 Lanka）
住所：鹿屋市北田町 11132-1 受付時間：9時から17時（土日祝日、年末年始除く）
電話 080-9424-0478 FAX 0994-45-5732 メール：info@kadac.jp HP：<https://kadac.jp/>



Vol.48 令和6年9月30日発行

[感想をお寄せください]

鹿児島県保健福祉部障害福祉課障害者支援室

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

TEL. 099-286-2111 (内線 2746) FAX. 099-286-5558

[E-mail]shougai@pref.kagoshima.lg.jp

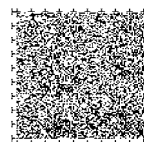
[URL]<http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/syogai-syakai/machi/index.html>

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へ御連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版及び録音図書を鹿児島県視聴覚障害者情報センター（鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアかごしま3F TEL.099-220-5896）に備え付けてあります。

【ユニボイス】について

ページの隅に置かれている、四角い黒い点々は音声コード [Uni-Voice] です。この18ミリ四方の一つのUni-Voiceの中に、日本語で約800字のテキスト情報を格納することができ、専用の読み上げ装置やスマートフォンのアプリ等で読み取ると、そのページの内容を音声で読み上げることができます。なお、視覚に障害のある方にもUni-Voiceの位置が分かるように、ページの縁に切り込みを入れています。



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用